

蝶ヶ岳ボランティア診療所

代表者 医学研究科 教授 酒々井真澄

連携・協力者 蝶ヶ岳ヒュッテ、安曇野赤十字病院、相澤病院、長野県警察本部航空隊など

ポイント 学生と医療者ボランティアにより、山岳医療を支援

1. 概要

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所は社会貢献を目的として、平成10年に蝶ヶ岳山頂（2,677m）直下にある蝶ヶ岳ヒュッテ内に設置されました。本診療所は高所医学などの研究・教育の場としての役割も備えており、毎年7月中旬から8月中旬の期間に学生、教員、卒業生などが診療活動に参加しています。蝶ヶ岳山頂から医師の常在する場所までは徒歩で片道5時間を要するため、本診療所は登山者にとって多大な恩恵となっています。

2. 活動内容

- ・令和6年は期間中に参加者59名（学生37名と医療スタッフ22名）が33名の患者診療（急性高山病、外傷、虫刺症など）に取り組みました。医療スタッフが診療所に不在の場合は蝶ヶ岳ヒュッテスタッフを通じて医療相談を受け付ける体制をとっています。
- ・運営会議、勉強会、学術集会への参加、山岳気象に関する教育講演会の開催、練習登山などにより診療活動に活かしています。「蝶ヶ岳での登山中の水分摂取量と急性高山病発症との関連」などの研究成果を学術専門誌「登山医学」に計4報発表しました。
- ・安曇野赤十字病院や日本大学医学部徳沢診療所とは下山後の患者フォローや吸入用酸素ボンベの提供サポート、松本市の相澤病院とは重症患者受け入れ、松本空港内の長野県警察本部航空隊とはヘリコプターでの救急搬送などの連携事例があります。

3. 成果

- ・これまでに3,000名（例年約130～200名）を超える患者の診療に携わってきました。
- ・活動の様子は新聞やテレビ番組でも取り上げられ、社会貢献の実地教育として大きな意義がある活動であると社会的にも認知されるようになっていきます。
- ・平成28年に北アルプス南部地区山岳遭難防止対策協会より当該診療所の功勞に対して松本市長より感謝状をいただきました。



勉強会の様子



講演会の様子



～高山病の症状～

頭痛・不眠・食欲不振・吐き気・むくみ
空咳・息切れ・疲労・脱力感

☆☆特に注意する症状

安静時の息切れ
泡を伴った咳
トチンカンな応答



安全登山への啓発活動